

おまけシリーズ

「ガーディアンの気持ち」ならぬ「私の独り旅日記」→第7回

前月(第6回)と同じように昨年 JR が鉄道開通150周年の特別記念企画「150周年秋の乗り放題パス」での旅でした。6月号でも書きましたが3日間、新幹線や特急列車を除く全国のJR 乗り放題で7,850円のチケットを購入しての旅です。

二宮→会津若松→只見→小出(新潟県)→越後湯沢→水上→高崎→東京→二宮で7,850円はなんととっても格安だと思います。

第1日(10月19日)

今回は福島県なので割と近いこともあり、少しゆっくり家を出て二宮発7時1分の宇都宮行に乗りました。また、いつもと違いは新幹線や特急列車に乗れないゆっくり旅なので乗り換えが宇都宮、黒磯、郡山と多く、会津若松には13時57分に着きました。会津若松と言えばなんととっても鶴ヶ城(会津若松城)と白虎隊で有名な飯盛山ではないでしょうか?大昔に来たところですが、また見学することにしました。

会津若松には山のクラブの先輩がいるので、夕食は先輩に御馳走になる、と図々しくも決めていたので午後5時に会津若松駅で15年ぶり位に先輩に会いました。実はこの先輩には只見での宿も取って頂いたのです。と言うのも約ひと月前にネットで調べて只見にある旅館と民宿15軒ほどに片端から電話をしたのですが、紅葉のシーズンに入っていて、更に只見線の11年ぶりの全線開通で空前の観光ブームになっていたのです。私としたことがちょっと甘かったかな?と思いつつも、そうだからこの時こそ先輩に頼もう、先輩なら何とかしてくれるだろう、と勝手の思い先輩に頼むといろいろなつてを頼ってやっと1軒の民宿を取って頂いたのです。流石先輩と感謝でした。その日は市内のビジネスホテルに泊まりました。

第2日(10月20日)

いよいよ只見線で只見へ。(只見線というのは福島県の会津若松から新潟県の小出までです。)1日、3便で朝の1番電車は会津若松発6:08です。朝早いのでさほど混まないと思い、駅に15分ほど前に着くと、なんと小出行きの只見線は満員に近く、座る席

はすでになく、只見まで約3時間、立つ覚悟を決めて運転席のすぐ後ろで小学生の子供のように手摺にしがみついていた。出発時には超満員でした。なんと1両だったのです。「11年ぶりの再開、しかも紅葉のシーズンも近いというのにJRは何たるところか」と思ったのは私だけだろうか？いつ乗り込んできたのか分らなかったが、福島県内の60歳台？のおばさん3人組が早くも電車の床に座り込んで、福島弁？で何やら不平タラタラ…。前にもどこかで書いたと思いましたが、私は電車内でMANウォッチング（人間観察）が大好きです。MANウォッチングは見るとは無しに見て、聞くとは無しに聞くのです。

満員電車は会津若松を定時に出発しました。15分程で市内を抜けると、やがて畑や田んぼの田園地帯に、そこを30分ほどで通り過ぎると、いよいよ山の中へ。そして只見川が山の中を縫うように、紅葉には少し早かったが素晴らしい景色。会津若松から只見駅までは距離約90キロで、駅が28あり、その内、会津坂下、会津川口というように頭に会津という字がつく駅が16駅もありました。

そうそう、例の福島県内から来たであろう？3人のおばさんたちですが、電車が駅に止まる度に満員の乗客をお尻でかき分けて運転席に来て運転手に「お客をこんなに立たせてどうするの？」「せっかく11年ぶりに開通したから来てやったのに！」「もう絶対こんな所、来てやらないから！」と福島弁ですごい剣幕。運転手は「私に言われても…」と困惑顔。するとおばさん達は、「そんなら誰に言えばいいの？」「駅長に言えばいいの？」と。そして電車が走り出すと、また床に座り込んで今度は近くの乗客達の誰とはなしに同じ訴えをしていました。私も聞くとはなしに聞いていて、「もっともだ！」「JRの偉いさん達は何を考えているのだ！」と心の中で叫んでいました。

実はこれには後日談があって、その後、11月頃には3両になっていました。あのおばさんたちの権幕が届いたかな？と思ったのです。

そんなことで、外の景色とおばさん達の会話のお陰で、3時間立ち通しの旅は疲れたものの、飽きることなく只見駅に。駅の周りは稲刈りを終えた田んぼの中に沢山の「只見線11年ぶりの再開歓迎！」「只見線再開おめでとう！」の案山子や、垂れ幕で地元は盛り上がっていました。「それにしてもJRなんなんだ！」と思ったのは私だけではないはず。

「只見駅周辺の見どころはどこかな？」と駅前の観光地図を見てみても、それらしい所がなく、奥只見のダムや湖はここからでなく、新潟の小出からバスである。駅前にプレハブの新しい観光案内所兼土産物屋みたいなのところがあり、さて、これからどこへ行こうかな？とコーヒーを飲みながら考えていると、近くでなにか？

聞き覚える声がしてきました。それは電車の中でずっとクレームをつけていたおばさん達でした。聞いていると「せっかく来たのだからどこか温泉でもないの？」と聞いていました。案内所の職員が「タクシーで30分～40分の所に深沢温泉があります」と。おばさん達は「バスはないの？」と。すると職員が凄いことを説明しましたのです。

「乗合タクシーですが片道、一人200円で行けます」と説明。すると、おばさんたちの表情が一変して、「それはいい、そこへ行こう」となったのです。

それを聞いていた、私も是非行きたいと思い、勇気を出して「私も一緒にお願ひできますか？」と。すると案内所の人「いいですよ」と言ってくれ、おばさんたちの了解も得てくれて、深沢温泉まで約40分、おばさん達とタクシー運転手の話が面白くて、私が口を挟む暇はありませんでした。

深沢温泉に着くと、タクシーの運転手は「2時間後にまた、ここに迎えに来ます」とのこと、おばちゃんたちと別れて、私は一人、男性用の露天風呂へ。秋の強い日差しの中で広い露天風呂を独り占め。私は思わず「ラッキー！」と叫びました。

温泉を出て、別棟にレストランがあり、美味しい手打ちそばを食べました。この温泉は絶対にまた来ようと思いました。

帰りのタクシーもまた例のおばちゃんたちと一緒に只見駅へ。思い切っておばちゃんたちに「どこから来たのですか？ 電車の中でずいぶん吠えていましたね」と聞くと、福島市内からで、「あんたもJRのサービスが悪いと思いませんか？」と聞かれたので、素直に「言われる通りですね。」と答えました。

駅に着いて、少し休んで先輩が予約しておいてくれた民宿へ、駅から30分ほど歩いて着きました。特にどうということのない民宿でしたが、やっと取って頂いた宿でしたので、有難く宿泊した次第です。

宿のおかみさんに、「ここは、あまり観光するところもないようですが、どんなお客さんが来るのですか？」聞いてみると、「確かに観光するところはありませんが只見川で川魚（イワナや山女魚）を釣りに来る人が多い」とのことでした。

第3日（10月21日）

今回は3日間の旅でしたので、今日はもう帰りです。只見駅から小出に出て、そこからは上越線で越後湯沢→水上→高崎→東京→大磯と普通電車の長い時間を掛けて帰ります。

ここで思わぬ大失敗をしてしまいました。小出で乗り換えるのですが、昨日の出来事があまりにも面白かったので、電車の中でいろいろな人に昨日の出来事をメールしてい

て、小出駅に近づいて、車内アナウンスで「乗り換えの方は忘れ物等ないように」と言われたと思いましたが、荷物を持っての乗り換える時に座席に携帯を忘れて降りて、次の電車に乗ってしまいました。また続きのメールをしようとしたら携帯がなかったのです。「しまった！」と思ったが後の祭り。電車が走り出してしまい、次の駅で降りて連絡しようとしたら、そこは無人駅でした。

改札口に行くと、張り紙があり、「御用の方は備え付けの電話でどうぞ」とあり、電話をすると、なかなか繋がらなかったがやっと繋がり、只見線から小出駅で乗り換える時に電車の中に携帯電話を置き忘れたことを告げたのです。すると携帯電話の形状など細かいことをあれこれ聞かれて、「小出駅に確認しますから、電話を切って暫くお待ちください」と。その暫くが何と長いこと。そんな事なら小出駅まで戻ろうとしましたが、小出行きも1時間以上ないことが分かり、仕方がない、と

覚悟を決めて待つことに。電話機の前で、じっと待っていると本当に暫くしてから、先ほどの駅員から「小出駅に落とし物が届いていました」と。それからまた、携帯電話の形態など、同じことを聞かれて、うんざりしましたが、「自分が悪いのだから仕方がない」と諦めて、やっと来た小出行きに乗って小出駅に戻ったのです。

駅の「落とし物預かり所」に行くと、また駅員から携帯電話の形状などを聞かれて、流石に私もうんざりして、もう何回も説明して、「何時頃取りに来ること、と伝えてあるから、分かっているでしょう」と告げると、駅員は「規則ですから」と言い、本人確認の免許証かマイナンバーカードを求められ、最後は受け取り確認書にサインをさせられて終了。ただただ携帯電話があって戻ったことだけが嬉しかったです。

今回の旅はたったの3日間でしたが只見線の素晴らしい景色や面白い福島弁のおばちゃん達、片道30分、200円の乗り合いタクシー、思いがけずうれしい露天風呂、そして最後は携帯電話の忘れ物（カミさんがいたらさぞかし怒られたことですが）、忘れられない旅になりました。

忘れ物だけは絶対してはいけないと自分に言い聞かせて、予定より4時間も遅れて自宅に帰ってきました。

さて、次はどこへ行こうかな…」と。

(by テツ&ゴン)